



平成 21 年 3 月 5 日
大阪ウォーターフロント開発(株)広報課
〒552-0022 大阪市港区海岸通 1
TEL06-6576-5529 FAX06-6576-5551
<http://www.kaiyukan.com/>
(担当：松原、齋部、西村、田井、鈴木)

はじける躍動感！あふれる生命感！

「発見！体験！ふれあいライブ館」の詳細決定！

大阪市港区の海遊館では、平成 21 年 3 月 13 日(金)から平成 22 年 1 月 11 日(月・祝)までの期間、「生き物とのふれあい」と「ガラス越しではない展示」をコンセプトとした体験型の特別企画展「発見！体験！ふれあいライブ館」(平成 21 年 1 月 28 日資料提供済み)を開催し、このほどその詳細が決まりました。また一般公開に先駆けて、3 月 12 日(木)に、メディア関係者向けのプレビューを開催いたします。

「発見！体験！ふれあいライブ館」は、「生き物とのふれあい」と「ガラス越しではない展示」をコンセプトとし、お客様に生き物をガラス越しでなく直接ご覧いただいたり、実際に触れていただいたり、鳴き声を聞いていただくことで、今まで以上に生き物たちの躍動感や生命感を体感していただくことをテーマとして開催します。

会場内は「カワウソライブ」、「ふれあいライブ」、「ペンギンライブ」の 3 つのコーナーに分かれています。「カワウソライブ」ではカワウソたちの愛らしい仕草や、より活発な行動を間近でご覧いただけるほか、一日に 1 回、お客様がカワウソから“^{さわ}触られる”体験も実施します。「ふれあいライブ」では、全長 10m×最大幅 8m×深さ 0.3m の大型タッチングプールにて、全長約 1m のトラフザメや体盤幅約 70cm のホシエイなど、大型のサメ・エイを約 30 匹飼育し、お客様にハラハラ・ドキドキのサメ肌体験をしていただけます。また「ペンギンライブ」は、イワトビペンギンとお客様の間を仕切るガラスがない、“ガラスレス”の行動展示となっており、イワトビペンギンの名前の由来でもある、岩の上をピョンピョンと飛び跳ねる様子や、泳ぎまわる様子を間近でご覧いただいたり、互いに鳴き交わす際の特徴的な鳴き声を聞いていただくことができます。



ふれあいライブ(イメージ)



ペンギンライブ(イメージ)

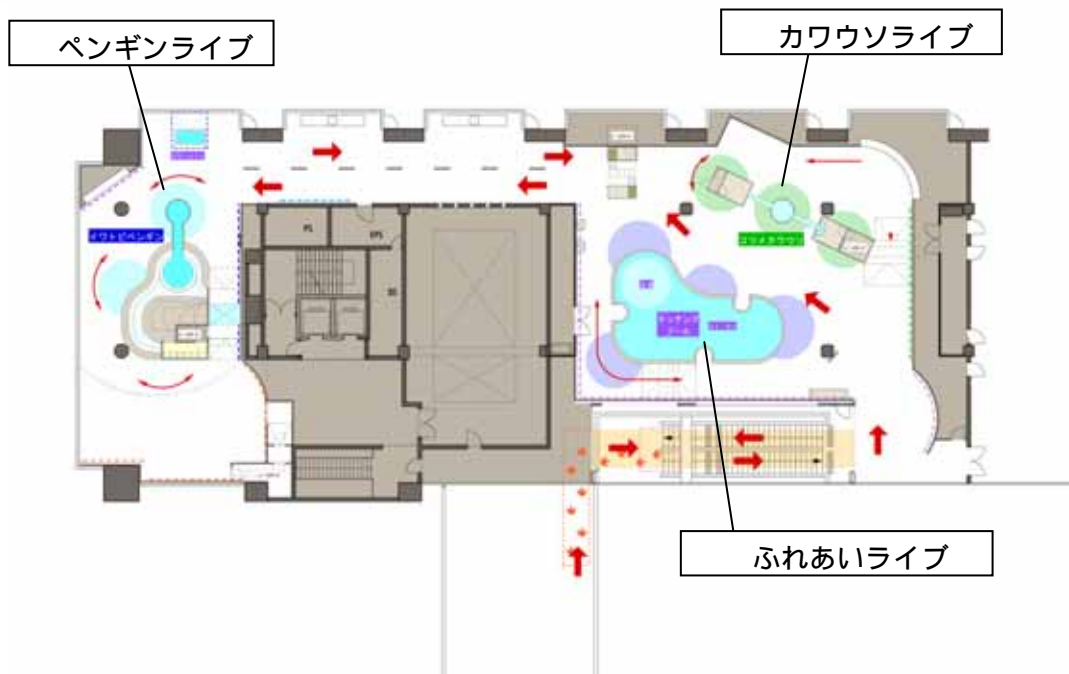
一般公開に先駆けて、メディア関係者向けプレビューを 3 月 12 日(木)午前 9 時 30 分から 11 時まで開催いたしますので、ご取材いただければ幸いです。取材をご希望される方は当日午前 9 時 20 分に海遊館エントランスビル 2 階海遊館案内所前にお集まりください。この時刻以外にお越しになる場合は、海遊館広報課へご一報ください。

【「発見！体験！ふれあいライブ館」について】

期 間	平成 21 年 3 月 13 日（金）～平成 22 年 1 月 11 日（月・祝） 平成 21 年 6 月 24 日（水）、25 日（木）は休館日
開催時間	10:00～20:00（季節によって変動あり） 海遊館の営業時間と同じ 海遊館への入館は閉館時刻の 1 時間前まで
開催場所	海遊館エントランスビル 4 階「海遊館ギャラリー」
入 場 料	海遊館の入館料に含む



【会場平面図】



【各コーナーの紹介】

〈カウソライブ〉



カウソライブ(イメージ)



行動展示水槽
(写真は「カウソのひみつ」開催時のもの)

1) トンネル水槽 展示数 2 頭

トンネル型水槽 1 基に 2 頭のコツメカワウソを展示し、カワウソの陸上、水辺でのそれぞれの様子を横や下からご覧いただくことができます。それぞれ普段は見ることのできない行動や、体の特徴をご覧いただけます。



真下から見たコツメカワウソ
(写真は「カワウソのひみつ」開催時のもの)

2) 行動展示水槽 展示数 5 頭

「ふしぎスコープ カワウソのひみつ」で登場した親子展示水槽に、カワウソたちの遊具を設置した「遊び場ケース」を増設し、空中トンネルで親子展示水槽とつなぎます。カワウソたちのいきいきとした姿とともに、遊具で遊ぶ愛らしい仕草やユニークな行動をご覧いただけます。

展示頭数は予告なく変更する場合があります。



空中トンネルで遊ぶカワウソ
(写真は「カワウソのひみつ」開催時のもの)

3) 飼育係員による生き物解説

13:30~、15:00~、16:30~ 一日 3 回

カワウソがアクリルパイプの中を泳いだり、器用な手でエサをつかんで食べる様子を解説します。また、16 時 30 分からの解説では、「ふしぎスコープ カワウソのひみつ」でお客様に大好評であったカワウソから「触られる」体験を実施します。カワウソたちが水槽に設置された穴から手を出し、お客様の手を触ろうとします。

生き物等の状況により、予告なく変更または中止する場合があります。



手（前肢）を出すコツメカワウソ
(写真は「カワウソのひみつ」開催時のもの)

コツメカワウソ

カワウソの仲間では最も小型の種で、東南アジアに生息しています。四肢の指に小さく短い爪があることから、この名前がつけました。指先は器用で上手に物をつかむことができ、小魚やカエルなどの水生動物を食べます。日本には「ニホンカワウソ」という種が生息していますが、絶滅の危機に瀕しているといわれています。



コツメカワウソの手（前肢）

《ふれあいライブ》



ふれあいライブ (イメージ)



大型タッチングプール (製作中の実写写真)

海遊館では過去最大となる、全長10m×最大幅8m×深さ0.3mの大型タッチングプールにて、ホシエイ、トラフザメなどのサメ・エイ類の大型個体を合計約30匹、スズメダイの仲間を約500匹、合計約530匹飼育します。目の前まで泳いできた際には実際に触って、体表の感触を体感できるとともに、大型のサメやエイに触るハラハラ・ドキドキ感を味わっていただくことができます。

1) 《主な展示生物 (カッコ内は展示数)》

トラフザメ (1匹) イヌザメ (15匹) ネコザメ (5匹) マダラトビエイ (2匹) クロガネウシバナトビエイ (2匹) ホシエイ (5匹) ルリスズメダイ (約500匹) など。

生物の種類や展示数を予告なく変更する場合があります。

トラフザメ

尾ビレが長く、全長の半分ほどを占めます。若魚の時は横縞模様をしています but 成長に伴い黒色斑点へと変わります。サンゴ礁域を好み、日本では沖縄周辺で見られます。展示個体は全長約1m。



トラフザメ

マダラトビエイ

世界中の熱帯から温帯域に生息し、水中を羽ばたくように泳ぎまわります。背面は灰色で白い斑点があり、ムチのように長い尾を持っています。展示個体は体盤幅約60cm。



マダラトビエイ

クロガネウシバナトビエイ

水中を飛ぶように優雅に泳ぎ、エビやカニなどの甲殻類、貝類を主食にしています。大西洋の熱帯から亜熱帯に生息しています。展示個体は体盤幅約 60cm。



クロガネウシバナトビエイ

ホシエイ

黒色の体に白い斑点があり、これが星のように見えることが名前の由来となっています。日本沿岸、特に北海道、本州北部に生息しています。展示個体は体盤幅約 70cm。



ホシエイ

2) 飼育係員による生き物解説

14:00～、15:30～ 一日2回

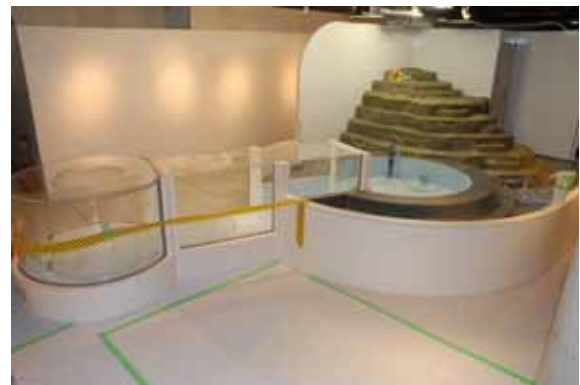
サメとエイの違い、サメ肌や歯の仕組み、どんなエサを食べているのかなどについて飼育係員が解説します。

生き物等の状況により、予告なく変更または中止する場合があります。

《ペンギンライブ》



ペンギンライブ(イメージ)



ペンギンライブ(製作中の実写写真)

イワトビペンギンのガラス越しでない、いわば“ガラスレス”の行動展示コーナーです。イワトビペンギンの名前の由来でもある、岩の上をピョンピョンと飛び跳ねて移動する可愛い姿や、プールを自由に泳ぎまわる様子を、すぐ目の前でご覧いただくことができるほか、イワトビペンギンが互いに鳴き交わす際の、特徴的な鳴き声を直接聞いていただくこともできます。また、昨年海遊館で誕生し、飼育係員の人工保育により育てられたイワトビペンギン2羽も展示します。さらに、海遊館で飼育しているペンギン4種(オウサマペンギン、ジェンツーペン

ギン、アデリーペンギン、イワトビペンギン)の鳴き声の違いや、ペンギンが空を飛ぶ同じ大きさの鳥よりも体重が重いことを、理解していただくハンズオンコーナーも設置します。

飼育係員による生き物解説 11:30~、16:00~ 一日2回

イワトビペンギンがピョンピョンと飛び上がって岩を登る行動と水中を泳ぐ様子、またヒナの成長やエサをとるための体の仕組み、鳴き声の意味や特徴を解説します。

生き物等の状況により、予告なく変更または中止する場合があります。

イワトビペンギン 展示数5羽

成長すると体長約 50cm になります。目の上にある黄色い冠羽が特徴で、岩場をピョンピョンと飛び跳ねながら移動することからこの名前が付けました。ペンギンの中では気性がやや激しく、小魚やオキアミなどを食べます。

展示数は、予告なく変更する場合があります。



イワトビペンギン